2017年7月1日
５５号

かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所　㈱日立製作所ひたちなか総合病院
〒312−0057
ひたちなか市石川町20番1
TEL 029(354)5111
発行人　飯　嶋　和　秀
編　集　広報委員会
http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html

ごあいさつ

院長　吉　井　慎　一

５月には記録的な暑さが続き、梅雨に入ってもまとまった雨がなく、水不足が心配されるこの頃ですが、皆様方は体調を崩すことなくお過ごしでしょうか。

2017年４月からは病院長も含めて人事異動がありました。以前より待望していましたリハビリテーション科専門医が常勤となり、回復期リハビリテーション科病棟では、整形外科、脳神経外科、内科と協力して、より質の高いリハビリを提供できることを期待しております。また、総合的な内科診療を行える医師が常勤となり、診療所や病院から紹介された、比較的緊急性の高い患者さんの初期診療を行っています。専門分化された内科診療はもちろん重要ですが、日常の救急医療、総合診療の充実が期待されます。

外科では、卒後２年間の初期研修を終えた医師４名が新たに加わり、計６名の後期研修医が精力的に診療を行っています。地域では医師不足が問題となっていますが、前院長や各診療科責任者の努力もあって、昨年より全体的には充実しております。一方で、診療科によってはマンパワー不足もあり、地域の医療機関、住民の皆様にはご迷惑をおかけしています。来年度までには、多くの診療科でバランスのとれた医師の配置に向けて努力してまいります。

地域医療構想では、医療機関ベースでの患者数の推定がされたため、私たちの医療圏では急性期病床は過剰であり、2025年に向けて削減の方針とされております。これに関しては、前院長が2015年から本誌を通じて皆様方にお伝えしてきた問題点が、その状況のままスタートしたことになります。本年度からは、行政（市役所）、医師会、薬剤師会、急性期病院、訪問・介護施設等の代表で、地域包括ケアシステム構築に向けての検討会が始まりました。本来このシステムの主体は地域住民です。住民・患者さんの視点に立った意義のある議論がされることを期待しています。

国の定めた病床区分は、高度急性期、急性期、回復期、慢性期とされていますが、地域の皆様は、自分が将来病気になったとき、また介護が必要となったとき、どの病床に入るべきか意識しているわけではありません。大切なことは、どのような状態でも、安心・安全な医療・介護が受けられる、そのためのシステムを作っていくことです。

最後になりますが、病院の品質目標として、「持続成長可能な病院運営をする」があります。これは営利目的という意味ではなく、当院の理念である「地域を護る病院」として、急性期から回復期までの一貫した医療を充実させて地域完結型医療を推進していくために不可欠のものです。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

ひたちなか総合病院・総合健診センタ休日のお知らせ

	日	月	火	水	木	金	土
7月							①
	②	3	4	5	6	7	⑧
	⑨	10	11	12	13	14	⑮
	⑯	⑰	18	19	20	21	㉒
	㉓/㉚	24/31	25	26	27	28	㉙

	日	月	火	水	木	金	土
8月			1	2	3	4	⑤
	⑥	7	8	9	10	11	⑫
	⑬	⑭	⑮	16	17	18	⑲
	⑳	21	22	23	24	25	㉖
	㉗	28	29	30	31		

	日	月	火	水	木	金	土
9月						1	②
	③	4	5	6	7	8	⑨
	⑩	11	12	13	14	15	⑯
	⑰	18	19	20	21	22	㉓
	㉔	25	26	27	28	29	㉚

	日	月	火	水	木	金	土
10月	①	2	3	4	5	6	⑦
	⑧	9	10	11	12	13	⑭
	⑮	16	17	18	19	20	㉑
	㉒	23	24	25	26	27	㉘
	㉙	30	31				

■はひたちなか総合病院休日　○は総合健診センタ休日

連携室通信

No.2

消化器内科

筑波大学附属病院
ひたちなか社会連携
教育研究センター
廣島　良規医師

消化器内科は、おもに上下部消化管・肝胆膵疾患に対する検査・治療を行っています。

主な疾患は、悪性疾患では食道がん・胃がん・大腸がん・胆のうがん・膵がん・肝臓がん、良性疾患では胃潰瘍・十二指腸潰瘍・潰瘍性大腸炎・クローン病・慢性および急性肝炎・膵炎・胆のう炎・総胆管結石および胆管炎などとなります。これらの疾患に対する治療として、抗がん剤治療や内視鏡的治療、各種穿刺術等での加療を行っています。

当院では年間、上部消化管内視鏡を約2,500件、下部消化管内視鏡（内視鏡的粘膜切除術を含む）を約2,000件行っています。それに加えて、高度な内視鏡治療とされる早期消化管がんに対する粘膜下層剥離術（ESD）を食道・胃に約50例、大腸に約30例、大腸がんによる腸閉塞に対する大腸ステント留置術を約20例、結石や悪性腫瘍による総胆管閉塞に対する内視鏡的ドレナージ術（ERCP）を約300例、施行しております。また、2012年度より超音波内視鏡および小腸内視鏡を導入したことにより、超音波内視鏡を用いた膵疾患の精査や、通常は試行困難とされる胃切除後の総胆管結石・閉塞性黄疸に対するERCPも小腸内視鏡を用いて積極的に取り組んでいます。

内視鏡以外でも、肝細胞がんに対するラジオ波焼灼術や、炎症性腸疾患に対するTNF－αモノクローナル抗体製剤を含めた加療、C型肝炎に対するインターフェロンフリー治療や、ヘリコバクター・ピロリ感染に対する除菌療法なども行っております。疾患が多岐にわたることから、皆様のお力になれることもあると思いますので、何かございましたら当科のスタッフにお声かけいただければと思います。

部門紹介

内視鏡スタッフ

内視鏡検査により病気の早期発見ができるようになっています。その反面、内視鏡検査は「苦しそう」「辛そう」といったイメージもあり、やりたくないと思う方も多いと思います。内視鏡スタッフは、検査中の身体的苦痛をはじめ、検査、治療に対する不安に寄り添いながら、精神的苦痛の緩和を図っています。

また、患者さんの立場に立って分かりやすい言葉で説明を行うように配慮しています。スタッフ内で定期的に勉強会を開催し、安全にかつスムーズに検査・治療の介助を行えるよう日々技術向上に努めています。

2017年度　新人看護師研修

2017年４月に新人看護師25名が入社しました。看護局では、各部署配属前に接遇・褥瘡予防・採血・吸引の実技などの集合研修を５日間実施しました。新人看護師たちは、臨床での実践に役立てられるように、熱心に講義を受けていました。病棟配属後も先輩看護師の指導のもと一人前の看護師になれるように頑張っていきたいと思います。

5月13日　看護の日イベント

2017年5月13日、看護の日のイベントを開催しました。多職種の協力のもと、大正琴の美しい音色を合図に地域のみなさまをお迎えしました。本年のテーマは「予防とセルフケア」でした。健康チェックをはじめ、転ばない体づくりの体操や健康な食生活へのレシピなど、体験型のイベントは皆様から好評をいただきました。また、初の試みで「認知症の方々との接し方」の寸劇、当院の院内助産師による「お産の場面」の寸劇を行いました。熱のこもった演技に「分かりやすかった」「感動した」などの感想をいただきました。

地域の先生紹介　尚仁会クリニック

●当院の特徴

2008年１月に開業した当院は、内科・外科・整形外科・皮膚科の診療科目を標榜し、生活習慣病の予防、各種がん検診、健康診断、予防接種にも積極的に取り組んでおります。又、救急協力診療所として救急車を積極的に受け入れ、外傷、急病等に昼夜対処しております。医療機器としては、レントゲン、CT、消化管内視鏡、手術室やハイケア室を装備し、19床のベッドと共に、外来や急性期、慢性期の入院患者に充分対応できるクリニックと自負しております。関連施設として、19ベッドの介護療養型クリニックを市内に併設しており、大病院から転院患者の受け入れがスムーズに行われています。

●院長の横顔

私は1974年（昭和49年）に東北大学医学部を卒業し、当時の国立水戸病院外科で３年間研修後、母校の第２外科入局。旧勝田市（現：ひたちなか市）の網野病院勤務後、2008年尚仁会クリニック院長に就任。2014年３月、ひたちなか市医師会長に推挙され、行政と共に地域医療への取り組む度合いが日々大きくなってきております。又、警察の検案医として昼夜別なく検視の任に当たり、わずかでも検案業務の支えになっているつもりです。

診察・検査の予約お問い合わせは地域医療連携室へ

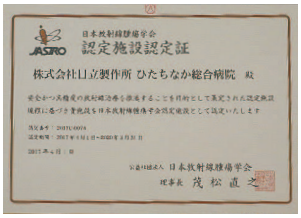
㈱日立製作所ひたちなか総合病院　8時15分～16時30分（月曜日~金曜日）
茨城県ひたちなか市石川町20番1　TEL 029-354-5202（直通）
TEL 029-354-5111（代表）　FAX 029-354-5220（直通）

施　設　認　定

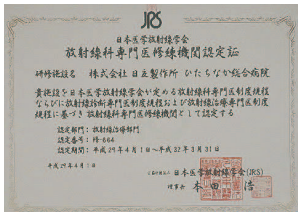
2017年４月に、日本放射線腫瘍学会認定施設ならびに日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関（治療部門）の２つの認定を受けました。

日本放射線腫瘍学会認定施設とは、安全かつ高精度な放射線治療が施行されていることを日本放射線腫瘍学会が認定する施設で、がん診療統括室放射線治療センタでは、地域がん診療連携拠点病院として地域住民に適切で高度な放射線治療が提供できていることの証と考えています。今年度からは常勤医も二人体制となり、さらに放射線治療の質を上げていきたいと考えています。

一方、日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関（治療部門）とは、放射線科専門医や放射線治療専門医を志す若手医師が放射線治療に関する十分な研修を受けることが可能と日本医学放射線学会が認定した修練機関です。今後は、放射線治療医をめざす医師の研修を積極的に受け入れて、県内の放射線治療医の育成に努め、若手の放射線治療医が常勤してもらえるよう積極的に研修希望者を受け入れていく所存です。



日本放射線腫瘍学会
認定施設認定



日本医学放射線学会放射線科
専門医修練機関認定部門：
放射線治療部門

◆◆◆◆ 医師異動の紹介 ◆◆◆◆

診療科	氏　名	異　動　日
臨床研修医	植　松　　洋	採用（2017．6．1）
	池　口　文　香	退職（2017．6．30）

熱中症を予防しましょう！

熱中症とは、体温が上がり、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温の調節機能が働かなくなったりして、体温の上昇やめまい、けいれん、頭痛などのさまざまな症状を起こす病気のことです。初期の対応・措置が迅速・的確であれば重症化を予防できます。

（熱中症の予防）

1．暑さを避ける

外出時には、なるべく日陰を歩く、帽子や日傘を使う。家の中では、ブラインドやすだれ・グリーンカーテンで直射日光を避ける。扇風機やエアコンで室温・湿度を調節する（環境省では室内温度28℃を推奨）。

2．服装を工夫する

身体にぴったりした衣類よりも、少し緩めの衣服で衣服内の風の流れを良くし熱の放散を防ぎましょう。

3．こまめな水分補給

室内でも室外でも暑い日は汗をかき、体内の水分が失われています。のどが渇く前からこまめに水分を補給しましょう。高齢者は、脱水症状が進みやすいので、入浴前後に水分を摂りましょう。

4．夏バテにならないように体調管理につとめる

バランスの取れた食事を心がけ睡眠を十分に取り夏バテを予防しましょう。

（熱中症の対処法）

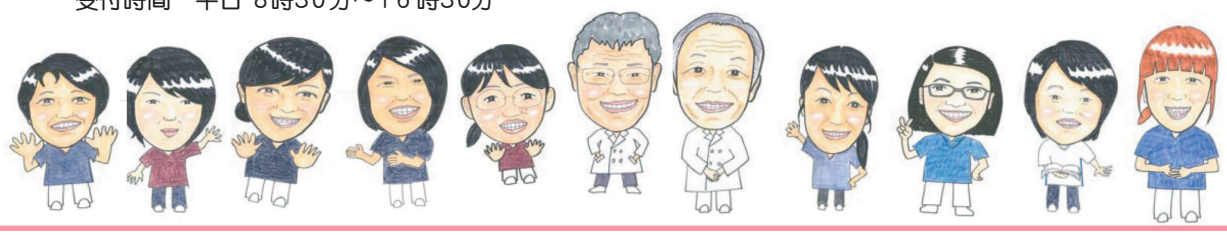
涼しい環境に移し、体温測定をする。衣服を緩め首や脇の下、太ももの付け根を冷やし体温を下げる。冷たい水、経口補水液やスポーツ飲料などを飲ませる。応急処置を済ませ症状が改善されない時は医療機関へ、意識がない、呼びかけに応答しない時は、至急救急車を呼びましょう。

ようこそ　院内助産へ♥

「自分らしいお産」からはじまる育児のスタートをサポートします。

「全室個室」です。お産の時もお産の後も、ご家族とゆったり過ごせます。

「産後ケア」（入院・日帰り）**「母乳育児外来」**もご利用ください。

お問い合わせは　産婦人科外来 029－354－5111㈹まで
受付時間　平日 8時30分～16時30分

スタッフ一同、お待ちしています！！